

石綿患者会 県支部発足へ

25日セミナー、情報共有図る

アスベスト(石綿)に起因する病気で苦しむ当事者が集う非営利団体「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」(事務所・東京都)の沖縄支部が25日、発足し、記念セミナーやアスベスト被害相談会を開く。支部では患者同士の交流や治療情報の共有を図る。

中皮腫は石綿を吸い込むことで発症するが、潜伏期間は通常30〜40年とされる。希少がんと言われ、確立した治療法がなく、根治が難しい。同会によると、石綿を

吸うのは建設や解体の仕事だけでなく、石綿の付いた作業着を家で洗濯したり、公営住宅などで天井に石綿が吹き付けられ、むき出しになっていたりした場合もある。県内では、基地作業による健康被害が問題化したが、それ以外のアスベスト被害はあまり注目されてこなかった。沖縄支部は同会の24番目の支部となる。県内の会員は5人。その1人、鹿川真弓さん(47)は「専門医を招き、正しい治療情報を得たい。患者同士

でゆんたくする場もほしい」と期待する。

県の肺がん診療の拠点である沖縄病院の大湾勤子院長は「私たちも患者さんから教えられることがあり、それを踏まえ、できることを考えていきたい」と話している。

セミナーは25日午後2〜5時、那覇市泉崎の県立図書館で開く。会員の体験発表や沖縄病院などの医師の講演がある。また25日午前10時〜午後5時、同じ会場で相談会もある。電話(0120)117554での相談も受け付ける。

(宮沢之祐)